シリーズ 行革！

次世代に負担を残さない！ どうする？洞爺湖町！

■問合せ　企画防災課行財政改革推進グループ（☎ 74-3004）

シリーズ４回目のテーマは町財政の特徴です！

Vol. 4　洞爺湖町の財政の特徴

毎年、洞爺湖町の予算、決算などを通じて町の財政状況をお知らせしていますが、今回は洞爺湖町と類似した町を比べて、洞爺湖町の歳入と歳出について考えてみます。

■類似団体に比べると…

歳入・歳出ともに大きい

いろいろと要因はあると思いますが、細長い地形、集落が分散、観光地である、ジオパーク・世界遺産など洞爺湖町ならではの特徴もあって、その分お金が必要とも言えます。

※類似団体とは、洞爺湖町の人口と産業構造が似ている市町村のことです。人口一人当たりの経費の平均を洞爺湖町の人口で再計算して比較しています。

■歳入では

①地方交付税が多い

地方交付税は国が地方公共団体に代わって徴収する地方税で、どの地域でも一定の行政サービスができるように財政状況を考慮して交付されます。

地方交付税の金額は、人口や面積、施設の数やかかった経費などを基に計算した額に対して町税などでまかなえない分が交付されます。

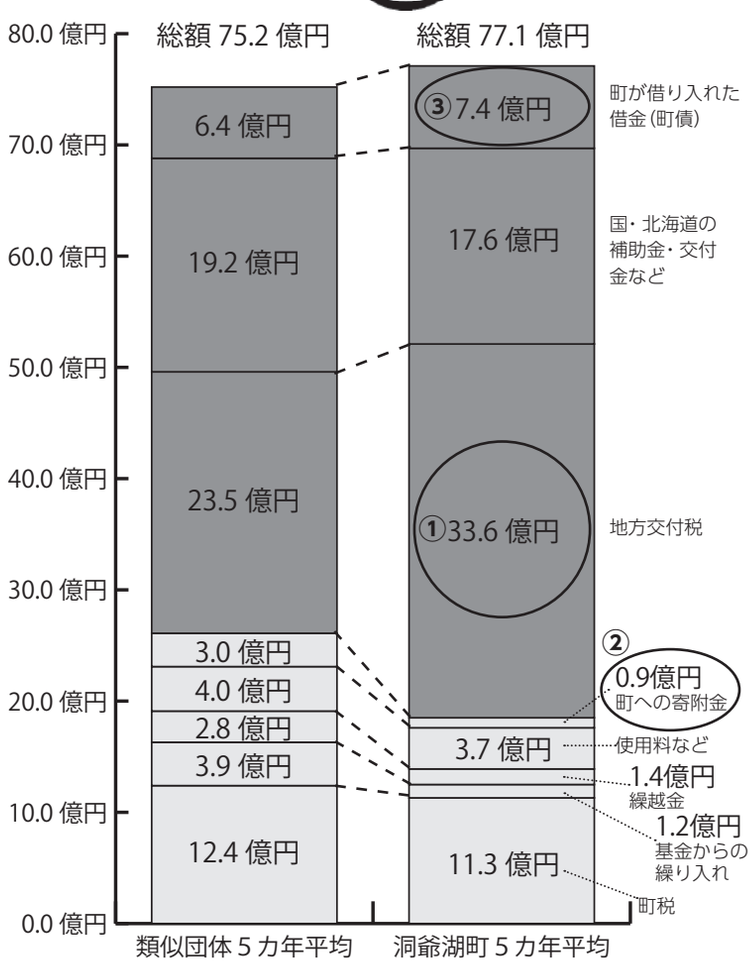
他の町よりも経費が必要な半面、それをまかなう収入が少なく、地方交付税に大きく依存している状況です。

②寄附金が少ない

洞爺湖町でもふるさと納税を推進していますが、他の町に比べると少ない状況です。

③町債も多い？

借入は計画的に行っていますが、合併した市町村だけが活用できる地方債を活用しているので多いのかもしれません（活用期限は令和７年度末まで）。



■歳出では

①固定費が多い

町の裁量で減らすことができない費用が多い状況です。

人件費…類似団体の中では、若干職員数が多く、平均年齢も高い状況です。

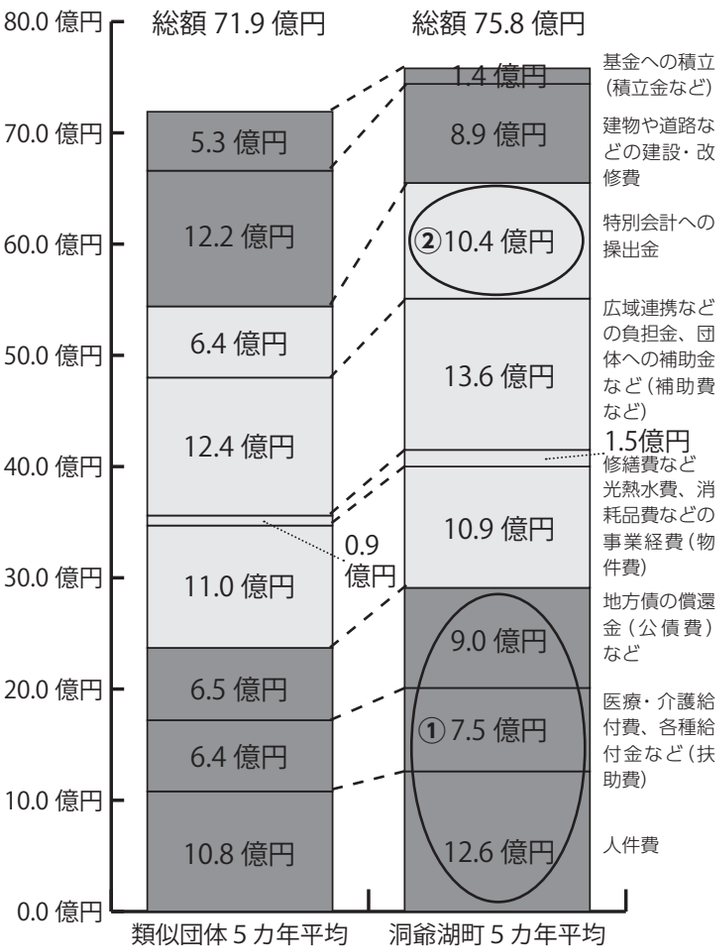
扶助費…医療費や給付金など。町独自の施策も行っています。

公債費…噴火災害時に借り入れたものや、合併特例債など地方交付税に算定される有利な借入を活用して事業を行っているため、償還額が多くなっています。

②操出金が多い

洞爺湖町では国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療、公共下水道事業、簡易水道事業の各特別会計に操出金を支出しています。

高齢化などによる医療給付や介護給付のほか、下水道では観光客を含めた人数分を処理できるように人口規模以上の施設を維持する経費となっています。



■これからの財政状況の見込みは？

「人口減少で地方交付税が減少」、「施設の老朽化で建設・改修費、操出金が増加」、「高齢化や子育て支援で扶助費、操出金が増加」などが見込まれます。

■収入が増えれば支出に回せる？

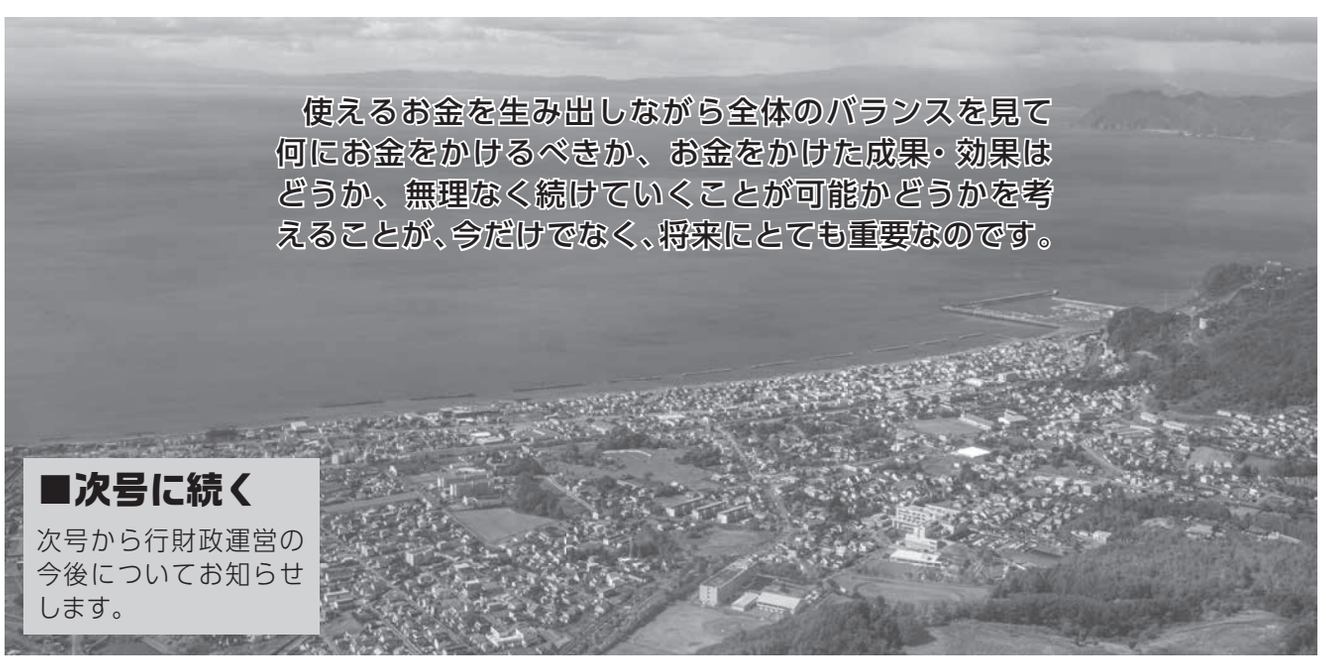
使えるお金を増やして、まちづくりに有効に使うことは、まちの活性化や町民生活にとって大切です。

町の収入を増やすには「所得を上げる、物が売れることで税収が増える」、「人口が増えることで地方交付税が上乗せになる」といったことも考えられます。

「事業などの見直しで支出を減らし、その分を他の支出に充てる」こともお金を増やす一つの方法です。

ただし、収入以上に支出が増えると、将来的に負担が重くなることが考えられます。

また、支出が増加すると、その支出に伴う業務が増えたり、人手が必要となることにもつながります。



■次号に続く

次号から行財政運営の今後についてお知らせします。